

避難所開設、連携を確認

平成高 住民や行政と合同訓練

横手市平鹿町の平成高校が、同校で避難所開設・運営訓練を行った。全校生徒が地元住民、行政関係者らと協力し、災害時の円滑な連携に備えた。校外の関係者と合同で実践的な訓練に取り組むのは初めて。

10日に実施し、生徒240人を含む約300人が参加した。大規模災害が発生し、付近住民が同校に避難してきたという設定。役割分担して作業を進め、施設管理班はテ

ントを組み立て、衛生班は簡易トイレを設置した。避難管理班は、住民らに名前と住所を記入してもらった後、テントに誘導。救護班は段ボール紙で簡易ベッドを作り、傷病者への応急手当を学んだ。

車いす利用者や担架で運ばれた負傷者への対応なども実践した。訓練終了式で、佐藤嘉彦校長は「共通理解の下で、それぞれが役割を果たせば大

きな力になると実感した。生徒は頼りになる存在。社会貢献できるよう頑張っていこう」と述べた。

総務班で全体に目を配った福原颯太さん（3年）は終了式後、「テント設置など避難

所開設にはある程度人手が必要だと感じた。地域住民との合同訓練は貴重な機会になった。もし大災害が発生したときには、今回の経験が必ず生きたらと思う」と話した。

（藤田 向）



テント設置では生徒がスムーズに作業を進めた